

海外派遣中における業務及び研究調査

大岩本 幸次

今回の上海派遣に伴う、華東師範大学サブセンターにおける業務について、今後の状況の推移により内容の変更も予測されるが、現時点では以下の二点を挙げる可以考虑。

(1) サブセンター備品管理・整備に関連する業務

当該サブセンターに備え付けるパソコンなど諸機材の購入・配置については、華東師範大学側が市大文学研究科より委託を受けて行うことになっている。機材搬入後、備品整備状況を確認し、その結果を日本側へ報告する作業を行う予定である。

(2) シンポジウム参加者の人選に関連する業務

平成十五年度に実施が予定されているシンポジウムに参加が望まれる中国側の研究者に対しては、三月中旬頃に正式に参加要請が行われる方向で計画が組まれている。今回、その準備作業の一環として、華東師範大学や近隣の大学に所属する人文学系の研究者に適任の人材を求めて情報収集を行い、また必要に応じて関係者にコンタクトを取り調整を図るといった業務に従事する予定である。

自身の研究に関係するところでは、明代に流行した「海篇類」字書群の版本調査を計画している。上海図書館を初めとする江南地方の諸機関にて書誌学的・版本学的調査を行い、「海篇類」の特徴や相互関係について概要を把握することを目的とするものである。

「海篇類」字書群の内容はどれも基本的には類似したものであるが、類似しつつも刊行地や刊行時期の違いによって微細な変化を生じながら展開している。その変化に着目して「海篇類」の変遷を辿ることができるならば、「海篇類」の受容や出版社間のネットワークといった側面について様相の一端を窺い、中国古代字書・出版文化のあり方の一類型を見出し得るかもしれないというのが、現在構想している研究テーマである。

「海篇類」は本邦においても少なからぬ種類を目睹し得るが、中国は異本も豊富であり、日本には所蔵が確認されない「海篇類」も数種ある。基礎研究をより十全なものに近づけるためには、日本国内と併せて中国での調査が欠かせない。ただ、閲覧制限が日本や台湾に比して厳しいことが予想されるため、今回は範囲を江南地方に限定し、じっくりと調査を進めることができると考えている。